東部六地区活性化ラボ Go EAST！

杉山 武志・Go EAST！メンバー一同

キーワード：地域コミュニティ，コミュニティ経済，大学間連携，丹波篠山市東部 6 地区

1. Go EAST！の経緯と概要

「東部六地区活性化ラボ Go EAST！」は，本学の EHC プロジェクトとしてはくもベラボの後継プロジェクトにあたる。丹波篠山市東部 6 地区（日置，後川，雲部，福住，村雲，大芋各地区）の関係者と連携し，丹波篠山市内の中でも人口減少が進む 6 つの地区の地域課題解決に寄与する活動を目的としている。新規プロジェクトとして参加メンバーを募集したこともあり，初年度の参加学生は全員が学部 1 回生（計 21 名）で構成された。

東部 6 地区では，人口減少のもと，地元アクターたちは，地区単位で地域課題解決に臨むだけではなく，旧町時代のよしみである 6 地区のゆるやかなつながりで地域コミュニティを再構築し，地区間連携の発想で 2022 年 4 月に受けた一部過疎指定からの卒業を目指している。

一方，地域側が地区間連携でスクラムを組んだことに対して，東部 6 地区の地域づくりに携わる兵庫県内の大学は幾つかあったものの，相互に交流する機会は少なかった。そうしたなか「Go EAST！（篠山の東へ行け！）」という共通の合言葉のもと，関西国際大学，関西学院大学，神戸学院大学，武庫川女子大学，そして兵庫県立大学の 5 大学（研究室あるいは地域連携センター等）が，丹波篠山市東部六地区協議会，（地元の若手で起業した）東風吹かば，丹波篠山市役所など東部 6 地区の諸アクターと実践活動を試みてきた。活動にあたっては，大学間連携も視野に入った総務省「ふるさとミライカレッジ」に丹波篠山市を申請主体として，東部六地区協議会，東風吹かば，上述 5 大学が連携して応募，2025 年 5 月に一次募集で採択を受けた事業も活用された。

各大学がそれぞれ特徴を活かした活動を展開しているが，兵庫県立大学からは，①伝統的祭礼の保全と継承，②連携拠点づくり（居場所づくり班），③東部 6 地区に関する取材と情報発信（情報発信プロジェクト班），④マルシェ運営・新商品開発班という 4 つのプロジェクトに携わった。

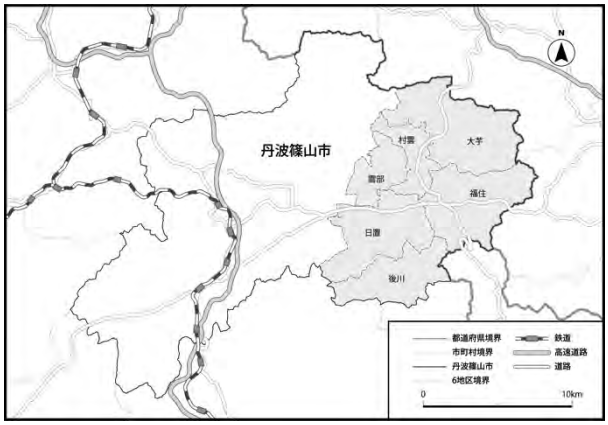

図 1 丹波篠山市東部 6 地区の位置
資料：杉山（2022）より

2. 各プロジェクトの成果

さて，具体的に各プロジェクトの成果を紹介してみることにしよう。

はじめに，チームビルディングと他大学との交流促進を目的に，2025 年 6 月 29 日に丹波篠山市東部 6 地区の主要箇所を訪問して現地の状況を把握したのち，2025 年 8 月 2 日～3 日の 2 日間にわたって，日置地区にある波々伯部神社の祭礼に合宿形式で参加した。祭礼への参加を通じて，東部 6 地区の歴史・文化を学ぶとともに，参加メンバー相互の距離感を縮めることができたように捉えている。

写真 1 祭礼当日の様子
資料：杉山撮影

祭礼後，各個別プロジェクトが本格的に動き出した。まず，居場所づくりに関しては，すでに地元や学生たちの拠点になっている日置地区「中立舎」に加えて，6 地区の結節点に位置する細工所「ハートピアセンター（A コープ跡地）」の利活用に挑もうとしている。利活用にあたって学生たちは「心休まる場所を創る」試みを行おうとしている。

そのハートピアセンターにおいて，2025 年 12 月 7 日にクリスマスマーケットをコンセプトとした「第 3 回さとやマルシェ」が開催された。本学の Go EAST！メンバーは，ほぼ全員が参加して，さとやマルシェの広報活動および運営に携わった。

さとやマルシェでは，旧福住小学校 SHUKUBA の食品加工所で販売されている既存の商品を学生たちがアレンジレシピを考案した「山鹿のオイル煮」，地元名産の黒豆を使用した「農家のおすそわけスープ」が披露された。披露にあたっては東風吹かばの指導を受けながら，事前に都市部の人たちへのマーケティング活動も経験した。2025 年 11 月 28 日～29 日にかけて品川で開催された「カルチャースナック」への参加は，「さとやマルシェ」でのお披露目に向けて弾みをつける機会となった。

情報発信プロジェクトについては，東部 6 地区の魅力を大学生の視点から発信する活動が行われた。現地での取材を通じて撮影した写真や動画をメンバーそれぞれが編集し、リール動画として公式インスタグラムから発信している。今後の活動としては，あえて手書きの文字やイラストを用いて学生の視点で取りまとめる冊子を作成する構想もある。手作り感のある情報発信は，くもベラボにおいて培った発想と似通っており，筆者（杉山）としては馴染みやすく親近感を覚える。

写真 2 ハートピアセンター「A コープ跡」
資料：杉山撮影

写真 3 「さとやマルシェ」で本学 Go EAST！メンバーの学生たちが作成したプロジェクト紹介の掲示
資料：杉山撮影。なお，本稿「2」の文章は，当該写真に映っている学生たちの説明文も参照してある。

3. 次年度に向けて

連携先の皆さんから聞いた限り，参加学生の頑張りもあり，初年度の取り組みは成功裡に終えることができたように思われる。本プロジェクトにおいて本学としては，地域コミュニティを育むこととコミュニティ経済循環の生成を想定して活動を進めているのだが，手前味噌ながら一定程度の成果を得られたものと自負している。

ただ，Go EAST！の試みは，ここから先が肝要になるとも理解している。すなわち，各プロジェクトの継続性である。昨今「関係人口」論が何かともてはやされているが，一時的な関わりでは，持続可能な地域づくりには限界が生じてくるし，「地域コミュニティを育む主役は誰なのか」，地元の皆さんと改めて検討しておくことも求められる。

最後に，もう一つ課題を挙げておくならば，実感として，参加する各大学の意識に温度差があった。各大学により地域づくりや地域連携への向き合い方が異なるのは致し方ないことだが，せっかく 5 つの大学がそれぞれの特色を活かしながらスクラムを組もうとしたわけだから，一度くらい 5 大学が一堂に会する機会があればよかったと感じている（本稿を執筆している 2026 年 2 月時点で 2026 年 3 月に報告会が予定されているが，残念ながら 5 つの大学の教員が揃うことはないまま終わることが見込まれている）。次年度は大学間連携について，もう少し深く掘り下げることのできる一年にしたいところである。